

加盟国協議に諮られているISPM案

ISPM 27

「規制有害動植物の同定診断 プロトコル」 付属書案



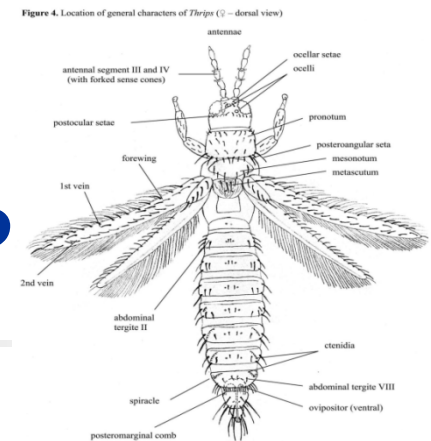
INTERNATIONAL YEAR OF
PLANT HEALTH
2020

農林水産省

MAFF

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

同定診断プロトコルとは？



- 病害虫を正確に見分ける（同定）手順並びに方法を記述したもの

利用場面

- 輸入農産物から発見される病害虫の同定診断
- 病害虫のサーベイランス
- 植物検疫証明に関連する病害虫の同定診断

同定診断プロトコルを作成する 背景・目的

背景

- 適切な植物検疫措置を適用するためには、病害虫を適切に検出・同定をするための同定診断プロトコルが必要
- 各国・地域の植物防疫機関が独自に様々な病害虫の同定診断プロトコルを策定

目的

調和のとれた国際的な同定診断プロトコルにより、各国による同定診断結果の相互承認を促進

ISPM 27の構成

「規制有害動植物に対する同定診断プロトコル」

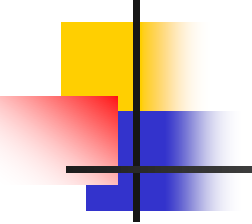
同定診断プロトコルの内容、目的及び使用、公表及び策定のための枠組みを定めたもの

- 個々の病害虫に関する同定診断プロトコルは本基準の付属書として定められている。
- 2019年8月現在、29本の付属書が採択されている。

採択された付属書の例

ミナミキイロアザウウマ
*Anastrepha*属（ミバエ科）
ヒメアカカツオブシムシ
ミカンコミバエ
アメリカオオハリセンチュウ

ウメ輪紋ウイルス
カンキツかいよう病
ジャガイモやせいもウイロイド
Xylella fastidiosa
マツノザイセンチュウ



これまでの経緯

- 2006年4月 IPPC総会でISPM No.27（規制有害動植物に対する同定診断プロトコル）が採択
- 2010年3月 IPPC総会でISPM 27の付属書として「ミナミキイロアザミウマ」の同定診断プロトコルが初めて採択

以降、ほぼ毎年、1～8本の付属書が採択

- 2019年7～9月 Striga属の同定診断プロトコル案の加盟国協議

*Striga*属の同定診断プロトコル

1. *Striga*属とは

- (1) 分類学的情報：ハマウツボ科 *Striga*属（半寄生植物）
- (2) 分布地域：アフリカ、インド、中国 等（日本未発生）
- (3) 寄主植物：主にイネ科の穀物作物（トウモロコシ等）に寄生
1種のみ双子葉植物（特にマメ科）に寄生
- (4) 被害：生育不良、収量減少
- (5) 伝染様式：風、水、鳥による分散
農業生産物等への混入による移動
（穀類、種子、飼料、土壌、機械等）



出典：Rob Williams, CABI

(<https://www.cabi.org/isc/datasheet/51785>)



(A) *Striga asiatica* (B) *Striga generioides* (C) *Striga hermonthica*

出典：IPPCホームページ (<https://www.ippc.int/en/>)

Striga属の同定診断プロトコル

2.検出方法

ふるい分け又は洗浄ろ過後、実体顕微鏡で検出

3.同定方法

種子又は植物体の特徴から同定
（検疫では主として種子から同定）



種子：大きさ、形状、色、表面の質感
（稜線、突起、凹凸等）
植物体：茎の枝分れ、花弁の色 等

表.経済的に重要な3種の種子の主な形態的特徴

種	サイズ (mm)	形	表面構造	色	写真
<i>Striga asiatica</i>	0.33	卵型	縦線、稜線 網状の突起	金褐色	
<i>Striga generioides</i>	0.25	三角形 D字型	滑らか ハチの巣状	灰色～ ライトブ ラック	
<i>Striga hermonthica</i>	0.30	楕円形 卵型	縦長の線 ハチの巣状 ねじれ	淡褐色～ 濃褐色	